

こすもす

2022.1

Vol.5

Contents

- がん治療と仕事の両立支援
- 今、がん診療連携拠点病院等に求められること
- 両立支援コーディネーターの役割
- 佐久医療センターの「がん患者さんの治療と仕事の両立支援」
- 就労についての相談窓口
- インフォメーション



がん治療と仕事の両立支援



がん患者・経験者の両立支援の推進について

がん患者の約3人に1人は、20代から60代でがんに罹患し（※1）、仕事を持ちながら通院している方が多くいます。また、がんと診断を受けて退職・廃業した人は就労者の19.8%、そのうち、初回治療までに退職・廃業した人は56.8%となっており（※2）、ご本人が診断時から治療と仕事の両立についても、気軽に相談できる体制づくりが求められます。

厚生労働省では、「第3期がん対策推進基本計画」（平成30年3月閣議決定）、「働き方改革実行計画」（平成29年3月28日働き方改革実現会議決定）に基づき、労働関係部局と連携しながら、治療と仕事の両立を社会的にサポートする仕組みを構築し、がんになっても生きがいを感じながら働き続けることができる社会づくりに取り組んでいます。

※1 「平成29年 全国がん登録罹患数・率報告」（令和2年4月24日発行）

編集・国立がん研究センターがん対策情報センター/発行・厚生労働省健康局がん・疾病対策課

※2 厚生労働省委託事業「平成30年度患者体験調査報告書」（国立がん研究センターがん対策情報センター）



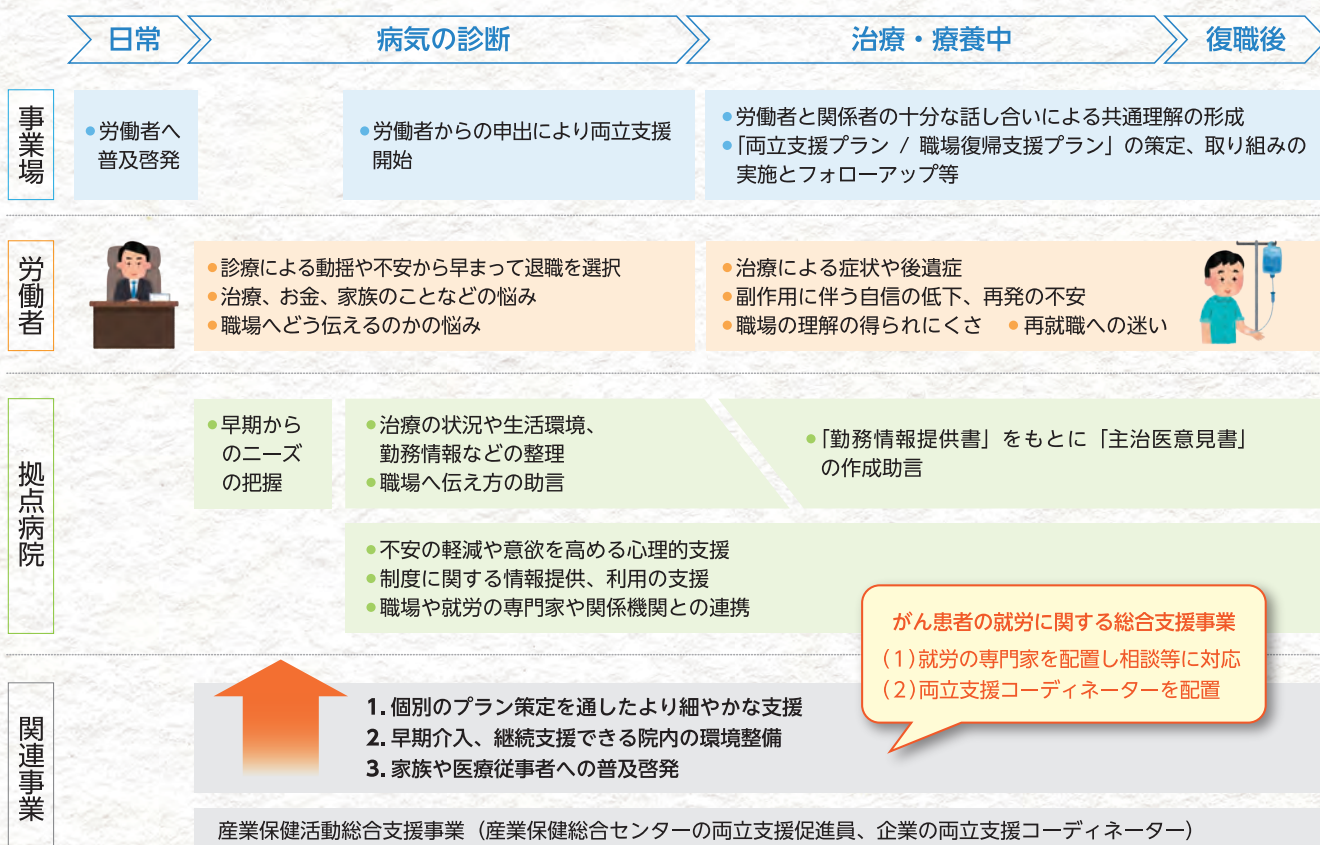
今…がん診療連携拠点病院等に求められること

がんと診断された時から相談できる環境の整備が求められています。

それまで健康だった人が病気にかかり治療が必要になると、以前の通りには働けなくなるケースが出てきます。その場合、治療に専念することになるが、あるいは、治療しながら働くことができるのかはケースバイケースですが、治療しながら働くことを希望する人にとっては、治療と仕事を両立させることができるのかは大きな問題です。

一方で、働く人の職場、とりわけ、人事労務担当者や産業保健スタッフ、そして、共に働く上司や同僚にとっても、治療と仕事の両立支援は重要な課題です。治療をしながら働きたいという思いがあり、主治医によってそれが可能だと判断された人が働けるような環境の整備が求められています。

拠点病院等におけるがん患者の仕事と治療の両立支援



がん患者さんの治療と仕事の両立支援

佐久医療センター 産業医 牛久 英雄



日本では生涯がんにかかる確率は、男性が62%、女性が47%と推計されています。平成28年の国民生活基礎調査ではがんと診断され、仕事を持ちながら通院されている方は年間31万5千人いるという結果でした。実際職場でがんを持ちながら働いていらっしゃる方はめずらしくありません。がんの患者さんはいろいろな困りごと、相談したいことができます。佐久医療センターにはがん相談支援センターがあり相談を受けていますが、その上位に就労と仕事の両立があります。平成29年に政府は働き方改革実行計画を発表しましたが、その中に病気と仕事の両立が挙げられています。主治医の先生、職場の人事担当者や産業保健スタッフ、両立支援コーディネーターが連携して就労支援を行います。がんと診断されてすぐに退職を考えず、主治医の先生やがん相談支援センターへご相談ください。

両立支援コーディネーターの役割

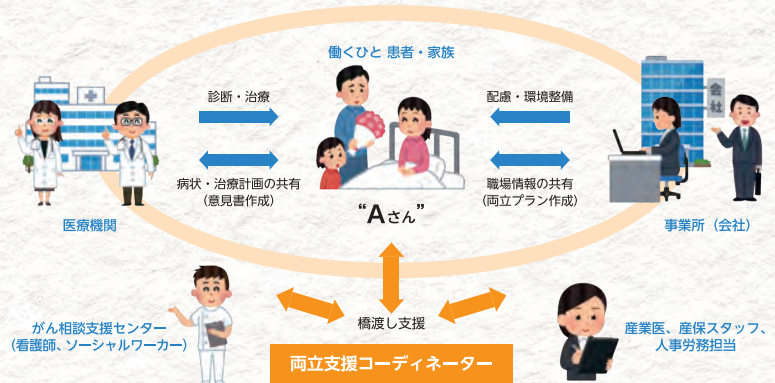
～乳がん患者Aさんの場合～

乳がんと診断されたばかりのAさん。「これから手術や放射線治療、抗がん剤治療などが必要になるようです。仕事を辞めなければならないでしょうか…」とがん相談支援センターに相談にみえました。

がん相談支援センターの相談員（両立支援コーディネーター）は、治療と仕事の両立を支援する様々な方法があるので、まずはすぐに辞めないことをお勧めしました。そして、Aさんの仕事内容を踏まえた支援のために、Aさんを通じて会社から事業内容を記載した書類を主治医に提出していただき、それを参考に主治医が症状、就業の可否、望ましい就業所の措置、配慮事項、将来の見通しなどを記載した意見書を作成し、会社に提出しました。

会社は、この主治医の意見書を参考に就業上の措置などについて検討し、Aさんとともに治療と仕事を両立していくための両立プランを作成し、Aさんの治療中の就業を支えました。このような、ご本人と会社、病院との連携により、Aさんは仕事を辞めずに治療を続けることができました。

こうした本人と病院、会社三者の連携を、病院や会社それぞれの立場でサポートするのが両立支援コーディネーターです。病院の両立支援コーディネーターは、がん相談支援センターや医療相談室の看護師やソーシャルワーカーが、会社の両立支援コーディネーターは、産業保険スタッフ（産業医・保健師）や人事労務担当者等が担っています。両立支援コーディネーターは、患者・家族（労働者）の精神状態、生活、家庭経済について配慮し、事業所、社会保険労務士や産業保険総合支援センターなどの専門機関とも連携し、主治医の意見書作成を始め、時期別、状態別に様々な就労支援を行います。



就労に関するご相談はがん相談支援センターへ… がん患者さんの「働きたい」をサポートしています。



がんと診断されても
仕事をやめる決断はせず
まず相談しましょう

医療者のみなさんへ

今日関わった患者さんは、治療と仕事のことで、悩んでいるかもしれません。
そんな時はお気軽に、「がん相談支援センター」へお問い合わせください。



「国立がん研究センター
がん情報サービス」
の冊子もご活用ください



病気のことを
会社にどう伝えれば…

治療と仕事を
両立できるか不安

会社の理解や協力が
得られないかも…



～インフォメーション～

● Zoom開催

「佐久がん基礎講座」

医療従事者対象 参加費無料 先着1000名

お申し込みはQRコードを読み込むか、
<https://ux.nu/225TY> よりお申込みください
 【お問い合わせ：E-mail gan-kyo10@sakuhp.or.jp
 事務局 篠原・高見澤】

・2022年1月12日(水) 19:00~20:00
 「緩和ケア」

講師：緩和ケア内科医師 山本 亮



・2022年2月9日(水) 19:00~20:00
 「白血病」

講師：血液内科医師 中澤 剛士



「がん診療セミナー」

・2022年2月21日(月) 18:00

「賢い患者で居続けるのもツライんです
 ～情報をどう伝え、決め、支えるか～」

講師：一般社団法人CSRプロジェクト代表理事
 桜井 なおみさん



● You Tube 配信 市民公開講座 (配信中)

- ・「高齢者が気をつけたいお薬の話」
 がん専門薬剤師 三浦 篤史
- ・「がん治療とお金」
 がん診療センター 篠原 和敏
- ・「がん治療としごと」
 認定がん専門相談員 MSW 市川 統子

講演会 「がん治療中に知っておきたいこと」

日時：令和4年3月16日(水)
 午後1時30分~2時30分

講師：佐久総合病院地域ケア科、
 ほっちのロッジの診療所医師 荻原 菜緒
 浅間南麓こもろ医療センター
 医療ソーシャルワーカー 猿橋 澄子
 佐久総合病院佐久医療センター
 緩和ケア認定看護師 井出 康恵

受講料：無料

申込：先着100名まで
 小諸市、佐久医療センター
 がん相談支援センター共催

申込はこちら▶
<https://is.gd/jbRsAm>



がんサロン「もくらん」

国内で拡大している新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染対策のため、**がんサロン「もくらん」の開催を当面中止いたします。**

再開につきましては、改めて病院ホームページや院内掲示などにてお知らせいたします。何卒、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

就労相談会 ～治療と仕事の両立に関する様々な困りごと～

社会保険労務士
 による相談会



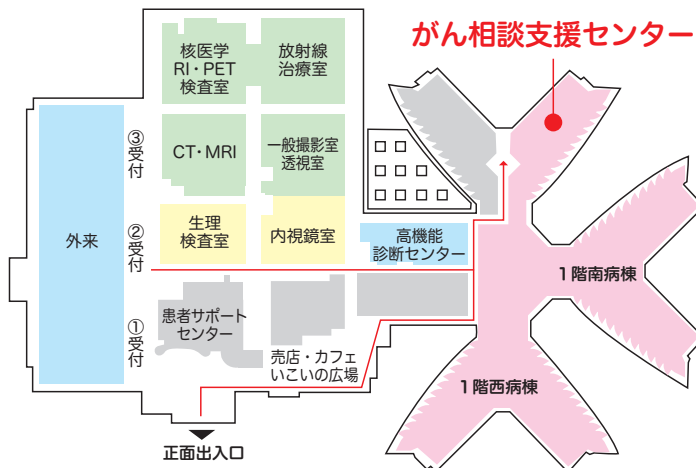
ハローワーク長野
 による就職相談会
 オンラインでの
 相談も承ります。

治療と仕事の
 両立支援相談会

ご相談・お問い合わせは
 がん相談支援センターまで

相談無料
 要予約

佐久医療センター 1階平面図



編集後記

がんと診断された患者さんの中には、衝撃のあまり仕事を辞める決断をされる方も少なくありません。また一旦仕事を辞めてしまうと、がんを患いながらの再就職は難しい現状もあります。この特集をご覧いただいたみなさま、患者さんへ「決断を急がないこと」「相談窓口があること」を是非伝えていただきたいと思います。



JA長野厚生連 佐久総合病院佐久医療センター

がん相談支援センター

☎0267-88-7184